

グループわ 設立20周年「記念式典」を開催

二十周年を振り返り 新たな活動の推進

平成29年7月22日(土)、グループわ 設立20周年記念式典がカレッジホールで開催されました。久元神戸市長、服部KSC学長をはじめとするご来賓の方々、歴代委員長・理事長、会員その他の皆さま、総勢約500名の参加で、カレッジホールは満席。定刻の10時、オープニングは音文20期和太鼓チームの迫力ある演奏で、ホールは心地よい緊張感と一体感に包まれ、式典が始まりました。

小畑20周年事業実行委員長(前理事長)は、20周年を迎えた〈わ〉を皆で祝い、今後の更なる発展をめざそうと力強く呼びかけられました。

続いて、ご来賓紹介の後、久元市長と服部学長より祝辞をいただきました。そして、久元市長より水町理事長に対し、グループわ のボランティア活動に対する感謝状が贈られました。

矢田前神戸市長の記念講演

前神戸市長・矢田立郎氏(こうべ市民福祉振興協会会長)より、今式典を記念し「神戸の今の街はどのようにしてできたか?」と題して講演をいただきました。明治22年当時は面積約21km²、人口約13万人だった神戸市が、現在は面積約557km²、人口約153万人に拡大。この間の周辺自治体の合併と都市計画の経過など、興味深いお話でした。



開会あいさつする小畑実行委員長

永年会員表彰を59名に

永年会員表彰として、第1期から第5期の会員で一定基準を満たした59会員が表彰されました。

代表として福祉1期〈わ〉初代委員長の福原克巳さんに表彰状が授与されました。



永年会員表彰を受けられた皆さん

(受賞者の詳細は、ぎやらりーわ次号に掲載予定です)

グループわ20年のあゆみ

グループわ 20年のあゆみがDVD化され、その概要が映写・紹介されました。

成長した〈わ〉の更なる発展を

20周年記念事業実行委員長 小畑 浩昭



多数の会員とご来賓の参加でグループわ 20周年を祝うことが出来ました。ありがとうございます。

KSC第2期生が入学して間もない頃、阪神淡路大震災が発生しました。当時の学生の震災支援活動がボランティア活動の契機となりました。

平成9年7月22日にグループわが設立されましたが、その組織は民主的で開かれた個人意思を尊重する緩やかな結びつきの組織でした。緩やかな結びつきの組織でありながら今日、会員1,400人を超え、多くの活動グループで構成され、多様な活動ができる組織として成長してきました。

20周年を契機に、さらに新しい時代に対応・求められる社会還元センターを目指しましょう。

神戸をさらに魅力ある街に

神戸市長 久元 喜造



最初に、華麗で力強い和太鼓演奏で元気を頂きました。グループわ 設立20周年おめでとうございます。グループわは、高齢者福祉や子どもたちの学習支援等々、市民の為に活動を進められていることに感謝します。最近では子どもの居場所問題にも取り組まれるなど、社会変化にも対応した素晴らしい活動と評価します。

神戸には山や海、おしゃれな街がありますが、それだけではありません。互いの助け合いで震災から蘇った市民の力が魅力です。

皆さんの支援で、グループわ がさらに大きく広がっていきますようにお祈りいたします。

和やかな共生社会を

KSC学長 服部 祥子



本日は、グループわ の設立20周年を現市長、前市長ご臨席の下祝えることを嬉しく、誇らしく思います。

グループわ 設立には、二つの精神的支柱があったと思います。一つはKSC建学精神の「再び学んで他のために」そして、阪神淡路大震災への直面です。震災当時はカレッジ生の6割以上が救援物資業務に取り組みされたということです。

ところで、グループわ はなかなか良いネーミングですね。環、輪、和、我などの言葉が浮かびます。穏やか、和やか、あなたも私も楽しく共に生きるというイメージです。このような人生航路を、今後も元気に歩んでいきたいと思っています。